

目 次

まえがき

序 章	なぜ、いま「日本外交の論点」なのか	1
-----	-------------------	---

第 I 部 日本の平和と安全

第 1 章	〔日米同盟〕日米同盟をめぐる対立軸	6
-------	-------------------	---

はじめに	6
1 日米同盟の基本的な構造	7
役割の拡大／権利と義務関係／メリットとデメリット	
2 国民の認識からみる対立軸	9
日米同盟の存在自体をめぐる対立軸／日米同盟のあり方をめぐる対立	
3 新ガイドラインと日米同盟の深化への賛否	11
新ガイドラインと日米同盟の「グローバル化」／日米同盟の強化を評価する意見／日米同盟の強化に批判的な意見	
おわりに	13

第 2 章	〔米軍基地〕「基地問題を考える」とは何か	16
-------	----------------------	----

はじめに	16
1 論点の抽出	17
なぜ、日本に基地があるのか？／なぜ、日本の特定の場所に基地があるのか？／沖縄に基地があるのは、地理的宿命か？	
2 歴史の Facts をおさえる	20
在日米軍基地の再編：歴史的経緯／沖縄への基地集中	
おわりに	22

第3章	〔自衛隊〕 自衛隊と憲法改正問題	25
	はじめに	25
1	自衛隊は「軍隊」か 自衛隊の任務と組織／自衛隊の実力	26
2	自衛隊の「特殊性」 「盾」としての役割／「文民統制」の伝統	30
3	自衛隊の創設と変容 存在する自衛隊／機能する自衛隊	31
4	現在の自衛隊の諸課題	34
	おわりに	35
第4章	〔集団的自衛権〕 日本の安全保障政策と集団的自衛権	38
	はじめに	38
1	集団的自衛権とは 国際法上の位置づけ／国内法上の位置づけ／安全保障上の位置づけ	39
2	日本の安全保障に寄与するという立場 日米同盟強化による寄与／国際協調主義による寄与	41
3	日本の安全保障に寄与しないという立場 「巻き込まれ」への危惧／安全保障のジレンマ	44
	おわりに	46
第5章	〔武器輸出〕 武器輸出をめぐる日本の政策	49
	はじめに	49
1	武器輸出三原則等の成立と展開 戦後の武器移転／武器輸出三原則の成立／繰り返される例外化と規範の作用	51
2	防衛装備移転三原則の成立 民主党政権下の包括的例外化／防衛装備移転三原則の趣旨／新三原則への反作用	54
	おわりに	56

第Ⅱ部 日本と近隣諸国の平和と安全

第6章 [領土問題] 交渉による領土問題の「解決」———— 60

はじめに	60
1 法的・歴史的正当性をめぐる議論	62
〈原則派〉と〈妥協派〉の対立図式／日ソ国交交渉と領土 問題／〈原則派〉と〈妥協派〉の視座	
2 交渉論としての〈原則派〉と〈妥協派〉	64
ロシアにおける領土問題の議論／交渉戦術としての〈原 則派〉の意義／交渉戦術としての〈妥協派〉の意義	
3 領土問題の解決に向けたアプローチ	67
領土入口論／領土出口論／信頼醸成の重要性	
おわりに	68

第7章 [拉致問題] 日朝国交正常化交渉と拉致問題 ————— 71

はじめに	71
1 日本人拉致「疑惑」の浮上と対話外交の形成	72
2 拉致問題の「再発見」と圧力外交の形成	74
3 日朝首脳会談と対話外交の幕引き	76
4 対北朝鮮の経済制裁と圧力外交の常態化	77
5 日朝交渉の再出発と対話／圧力外交の両立	79
おわりに	80

第8章 [歴史認識] 「歴史認識」とは何か ————— 82

はじめに	82
1 国際関係論からみる「歴史認識」	83
2 歴史認識と靖国神社	85
靖国神社の成り立ちと意義の変化／日本における靖国 観／歴史認識と日本外交	
おわりに	88

第9章 [多角的安全保障] 多様化する多角的安全保障の枠組み — 92

はじめに	92
1 近年の安全保障枠組みの多様化：ASEAN とミニラテラリズム	93
ASEAN 主導の多国間安全保障枠組み／ミニラテラリズム の勃興	
2 冷戦後の日米同盟とその存在意義	96
冷戦後の東アジアの戦略環境の変化／多国間枠組みの欠 如と出現	
おわりに	99

第Ⅲ部 国際社会の平和と安全

第10章 [国連] 日本と国連 — 104

はじめに	104
1 安保理をめぐる国際政治	105
2 日本外交にとって国連とは	107
数字からみる日本と国連の現状／日本の国連政策の変遷	
3 日本は安保理常任理事国になるべきか	111
賛成する見解／反対する見解	
おわりに	113

第11章 [平和維持／平和構築] 平和維持／平和構築をめぐる論争の構図 — 116

はじめに	116
1 自衛隊による平和維持／平和構築	117
多国籍軍をめぐる論点／PKO をめぐる論点／積極派と消 極派	
2 海外派遣積極派の論拠	120
国際協調の重視／国際的評価の重視	
3 海外派遣消極派の論拠	121
国際協調の重視／国際的評価の重視	
おわりに	123

第12章 [核軍縮] 核軍縮をめぐる非人道性と安全保障の論理 —— 126

はじめに	126
1 日本の核軍縮外交のスタンス	127
核兵器のない世界をめざす日本／核兵器に安全を依存する日本	
2 非人道性の論理	128
核兵器の非人道性／核兵器の非人道性を語る政治的意義／核兵器の非人道性を語る政治的問題点／日本政府の対応	
3 安全保障の論理	131
核兵器の脅威に対する安全保障／非人道性の論理と安全保障の論理のどちらを優先するのか	
おわりに	132

第13章 [輸出管理] 安全保障貿易管理とは何の問題なのか —— 136

はじめに	136
1 国際的な輸出管理体制の構築と展開	138
単独統制の限界と多国間枠組み／輸出管理レジームをめぐる国際的な協調と対立	
2 国内問題としての安全保障貿易管理の諸相	140
日本の安全保障貿易管理と東芝機械事件／安全保障貿易管理の強化とそれに伴う課題	
おわりに	143

第14章 [テロリズム] 国際テロ対策の展開と日本のテロ予防支援 —— 146

はじめに	146
1 国際テロ対策の構図	147
法による対応／軍事力による対応	
2 国際テロ対策の新たな潮流	150
3 各国の立場の相違	151
4 日本の選択	152
おわりに	154

第Ⅳ部 国際協力

第15章 [緊急援助] 日本外交と緊急援助 ————— 158

はじめに	158
1 日本による緊急援助の取り組み	159
緊急資金援助／緊急援助物資／国際緊急援助隊	
2 自衛隊による緊急援助	161
国際平和協力活動／国際緊急援助活動／テロ対策特別措 置法にもとづく活動／イラク人道復興支援特別措置法に もとづく活動／国連平和維持活動の新たな展開	
3 今後の日本による緊急援助	166
おわりに	166

第16章 [政府開発援助] 政府開発援助と「国益」 ————— 169

はじめに	169
1 ODA の基礎知識	170
定義／種類	
2 開発協力大綱	171
開発協力の定義／開発協力と国益	
3 国益をめぐる対立軸	172
国益をめぐる論点／国益重視に対する批判／国益を重視 する立場	
おわりに	175

第17章 [難民・国内避難民] 難民・国内避難民は弱者か、脅威か — 179

はじめに	179
1 人権か、主権か	181
人権の論理／主権の論理	
2 難民が脅威とされるとき	183
3 日本は強制移動民と向きあえるか	185
おわりに	186

第18章 [地球環境問題] 気候変動問題と日本の対応 ————— 189

はじめに	189
1 気候変動問題の概要	190
2 気候変動問題への国際的取り組み	191
3 パリ協定締結と今後の課題	192
4 各国の立場の相違	193
5 日本の選択	194
消極的な態度／積極的な態度／限定的推進	
おわりに	196

第19章 [国際犯罪] 日本における人身取引と人権 ————— 198

はじめに	198
1 国際犯罪	199
麻薬・薬物／資金洗浄（マネー・ロンダリング）／サイバー 空間に対する脅威	
2 人身取引	201
定義／被害の実態／人身取引の要因／グローバリゼー ションと国際犯罪の狭間で：国境管理の強化	
3 外国人技能実習制度	204
グローバリゼーションと国際犯罪の対立を超えた新たな 問題／被害の実態／新たな外国人技能実習制度の構築	
おわりに	206

第20章 [グローバル・コモンズ] 海洋秩序と日本外交 ————— 209

はじめに	209
1 グローバル・コモンズの特徴：領域主権の排除と「開放性」	210
2 公海をめぐる対立と日本：海洋国対沿岸国	211
公海の範囲／漁業資源の枯渇	
3 「人類の共同財産」と日本：先進国対発展途上国	216
おわりに	217

第Ⅴ部 国際経済と文化

第21章 [通商] メガ FTA の時代における日本の通商政策 ————— 222

はじめに	222
1 21世紀型の貿易ルール	223
第2のアンバンドリング／企業内貿易の広がり	
2 通商政策の転機：WTO から FTA へ	225
停滞する WTO 交渉／東アジアにおけるメガ FTA 構想	
3 TPP 参加に向けて	227
P4 協定から TPP へ／ISDS 条項をめぐる対立	
4 これからの日本の通商政策	228
米国の保護主義と中国の「一帯一路」構想／TPP の今後	
おわりに	230

第22章 [食料] 農業・食料をめぐる多様な政策選択肢 ————— 233

はじめに	233
1 政策的帰結としての日本農業の衰退	235
農産物輸入の歴史／国内外からの市場開放要求／WTO 農業協定の意味	
2 農政改革をめぐる対立軸	237
日本農業の課題と農政改革／農政改革からみえる論点／日本農業を支える担い手とは	
おわりに	240

第23章 [資源／エネルギー] 「資源小国」に求められるエネルギー資源外交 — 244

はじめに	244
1 日本は「資源小国」なのか？	245
2 エネルギー資源ガバナンスの国際的展開と日本外交	247
第二次大戦後のエネルギー資源ガバナンス／2つの石油危機と日本外交	
3 「資源小国」に求められるエネルギー資源外交とは？	250
消費国間協調の重要性／多面的なエネルギー資源外交	
おわりに	252

第24章 [パブリック・ディプロマシー] 文化を通じた国際環境へのアプローチ — 254

はじめに	254
1 戦後日本の対外広報・文化交流の展開	256
国際交流基金／「国際国家」日本の国際文化交流	
2 21世紀の日本のパブリック・ディプロマシー	257
「ソフト・パワー」／「クール・ジャパン」／リベラルな 国際秩序の動揺のなかで	
3 パブリック・ディプロマシーの効用と限界	260
おわりに	261

第25章 [世界遺産] 世界遺産をめぐる日本外交 ————— 264

はじめに	264
1 世界遺産条約の概要と登録評価のしくみ	265
2 世界遺産条約における危機遺産リストの重要性	266
3 世界遺産と日本	267
文化遺産保存のためのユネスコ日本信託基金／オーセン ティシティーに関する多様性の受容への貢献	
4 世界遺産登録に際する政治的働きかけ	269
5 事前交渉機会の制度化	270
おわりに	271

第26章 [捕鯨] 水産資源の利用と保護 ————— 274

はじめに	274
1 日本の捕鯨外交を振り返って	276
科学と捕鯨／批判される捕鯨／調査捕鯨の時代	
2 クジラを利用するということ、保護するということ	278
歴史の連続性／歴史の非連続性／IWC への視線	
おわりに	281

あとがき

索引

執筆者紹介

編者紹介